

図書館だより

'78・2

「物」としての「書物」

板垣 意（英文学）

蚕が繭を紡ぐように、人も自己の蔵書を作る。蔵書はその人の読書履歴の里程表である。ところで、人はいっぺんには成人し得ないのであるから、後に顔を赭めねばならないような本がそこに在っても仕方ない。幼稚な読書も、より高級な読書のための機縁となってくれたのであるから、そのような本も丁重に蔵書の中に残してやるのが礼儀である。このように、蔵書にはそれぞれに人知れぬ歴史と存在理由とがある。だから、他人の蔵書について軽々しい発言は出来ない。例えば、貧困の時などには、人は愛着する蔵書とさえ離別しなければならぬ事もある。それらの本は私たちの賤しい口に糊するためにはいわば身売りしてくれたのである。であるから、人が現在もっている本と本との間にはあちこちに他人には見えない隙間があって、そこにはいなくなった本たちの位碑が立っているのである。

若し金と書棚に余裕があれば蔵書は大きければ大きい程よい。というのは、本は蔵書としてそこにあることによって人を感化してくれるからである。人は「思想」というような抽象的なものによって薫陶されることはない。寧ろ、人は「物」によって陶冶される。音楽が「音」によって、彫刻が「石」によって、人を陶冶するように、本もその中にある「思想」によってよ

りも、先ず書棚に並んでいる「本」によって人を感化する。しかし、人は莫大な蔵書を所有することは不可能なのであるから、人は時折り図書館に坐らねばならない。そこには「本」が森のように立っているからである。私が若い頃勉強したアメリカの大学には、デパートより大きな図書館があって、その中にいるだけで壮麗な文化遺産の中にいるような感じになったものである。特に夏休みになって、学生が少なくなって、図書館も人が閑散となる時期には、図書館全体が自分のものになったような感じで、今だに楽しい記憶となっている。

本に囲まれて暮らすことが、本の物理的感化力に身を曝らすゆえんであるが、読書も又物理的なプロセスである。人は本の中に「思想」を読むのではなく、一つ一つの文字、印刷された文字を読むのである。これら一つ一つの文字なくして、その本はなく、その本の中の思想はないからである。そういう意味で、多少、我田引水になるが、私は英語で本を読むことを幸運なことと思っている。英語は所詮外国語であって、そしてまさにそのために、一語一語を確かめつつ読むことを私に強いるからである。このように本を読まねばならぬことは不幸なことではない。そのようにして本を読んだあと、人は顔を額に汗しつつ耕した時のような疑い得ない喜びを感じることが出来るのだから。

図書館をあなたのものに

—— カード目録を中心に ——

はじめに

皆さんの共有財産である図書館を有効に利用していただくために、いままでは図書館の資料の種類や所在、閲覧室の使い方、資料の探し方などいろいろ紹介してきましたが、今回は図書館に所蔵されている資料を能率よく、的確に探し出す方法や道具について一緒に確かめてみましょう。

当図書館には現在、約90,000冊の資料がありますが、年間増加冊数は約4,500冊です。この数は決して満足できるものではありませんが、これらの資料には数多くの情報が蓄えられています。物価高のおり、個人で持つことのできる資料は限られると思いますが、このようなときこそ、利用されることを目的で集められた資料を十分に活用なさってはいかがですか。

資料の並び方

必要とする資料を求める方法にはいろいろあると思いますが、予備知識を持たなかったために一冊の図書を探し出すのに貴重な時間を費したり、さんざん探し廻っても資料を発見できなかった等という苦い体験をお持ちの方もいらっしゃると思います。

図書館には、時間をかけないで一冊の特定の図書を探し出すためのいろいろな方法があり、そのための道具も備えられています。

皆さんがよく立ち寄られる書店では、「家庭園芸」「経済・経営」「外国文学」等という各種の案内板をもとに書架に図書を並べておりますね。図書館の資料も案内板の見出しは多少違っていますが、似かよった方法で、すなわち、共通する主題（内容）、関係の深い資料ごとに分けて書架に並べております。それは、文学関係の図書のグループ、歴史関係の図書のグループ……というように主題から資料を求めやすいようにするためです。

資料の内容の分け方—分類のこと

このように、図書館では資料を内容によって分けて並べておりますが、あらゆる分野にわたる資料を区別するのは大変です。そのため当図書館では**日本十進分類法**という手引書を用いて、あらゆる分野の資料を大きく10のグループに分けております。1から9までの九つのグループは哲学・歴史……というように分野がはっきりしておりますが、それに入らない一般的（総合的）なものを総記0（ゼロ）として一つとっております。総合的な内容を含む全集・叢書・個人の著作等は、この分類表のトップ、0のグループに入ります。0を先頭に1から9のグループは、000、100、200と三桁の数字をもってあらわされ、最初の数字が第一の手がかりとなります。たとえば芸術の図書には、とにかく7の数字がつくというように……。

日本十進分類法（基礎10区分）

- 000 総記
- 100 哲学（哲学、心理学、倫理学、宗教）
- 200 歴史（歴史、伝記、地誌、紀行）
- 300 社会科学（政治、法律、経済、統計、社会、教育、民俗、軍事）
- 400 自然科学（数学、自然科学、医学）
- 500 工学・技術（工学、工業、技術、家事）
- 600 産業（農林、水産、商業、交通）
- 700 芸術（美術、音楽、演劇、運動、遊芸、娯楽）
- 800 語学
- 900 文学

日本十進分類法 新訂6A版（JLA刊）より抜粋

ところが芸術といってもいろいろあります。芸術のなかで演劇の図書は上二桁が77とつづ

く数字であらわされます。三桁目の数字で、こんどは演劇のなかさがさらに細かく分けられ、数字が細くなるにしたがって図書の内容がはっきりしてきます。全部で1,000区分になります。「図書館利用のしおり」や閲覧室カウンター近くの壁面にこの分類表がありますのでご覧ください。ここには基礎10区分と770の演劇だけを抜き出しておきます。

770	演劇
771	演劇理論・演出法
772	演劇史・各国の演劇
773	能・狂言
774	歌舞伎
775	新派・新劇
776	(空番)
777	人形劇
778	映画
779	大衆演芸
日本十進分類法 新訂6A 版(JLA刊)より抜萃	

この分類表にもとづいて数字を与えられた資料は、書架上に並べられても一目で区別ができるように、数字を資料の背にラベルに書き込んで貼りつけたり、直接ペイントで書き込みます。この数字を図書館では分類番号と呼んでいます。さしあたり、分類表のなかの基礎10区分だけでも記憶しておかれると、閲覧室にある資料で、たとえば語学の図書は800台の番号のところにあるだろうと、すぐ見当をつけることができます。

このように分類表を用いて資料を分けるのは、共通する主題や、関連する分野を一ヶ所に、あるいは、近くに並べることが目的ですが、しかし、問題がないわけでもありません。一冊の図書で二つ以上の主題を含むとき、どちらの主題に入れるか迷ってしまいます。オールダス・ハックスレーの「文学と科学」の一冊を、文学900の所と、科学400に同時に並べることはできません。

浄瑠璃・能狂言関係の資料は、文学を中心テーマにとりあげているときは900に、音楽的な面から取扱われているときは700というように置き場所が違ってきます。このように一ヶ所に並べることができない資料、同じ書名でも置き場所の異なる資料は少なくありません。図書館では、資料を主題ごとに分けることによって生

ずるこれらの問題を、他の方法・道具によって解決しています。

資料の記録—カード目録のこと

当図書館の資料のうち、約20,000冊を皆さんがいつでも自由に資料を手にするができるように閲覧室に出しております。そのほかは全部書庫にあります。閲覧室を利用なさって気付かれるように、資料は各コーナーごとに分かれて並べられております。また、これらの資料は利用されることが目的ですので、貸出中等で常に定められた書架上にあるとは限りません。図書館では、このような制約のなかでも資料の所在の確認や、おおよその内容を知ることができる道具を用意しております。それは、図書館で所蔵している個々の図書についての著者・書名・出版地・出版社・出版年・大きさ・ページ数・内容等を、カードに書き込み並べてあるリストです。図書館ではこれをカード目録と呼んでいます。目録にはカードの形をとるものと、本の形をとる目録の二通りがありますが、いずれも所蔵している資料を知る道具で、「岩波文庫目録」「これから出る本」等、書店で発行している目録は後者の方です。

当図書館では、誰が書いたものか、何という書名であったか、何について書かれているかという三つの点から、求める資料を探し出す三種のカード目録を用意しております。

1. 分類目録 哲学・歴史・社会・医学のように、分類表にきめられている順序、すなわち、分類番号の順序に並べられている目録です。書架上に図書が並んでいるように、カードも並べられています。著者名・書名がわからないときでも、ある主題についての資料を求めようとする場合、この目録を用いてください。北海道の動植物について書かれた本はないか？ 旅行についてのガイドブックはないか？ 等と皆さんの関心の深いテーマから資料を求めることができます。分類表の番号を手がかりに、この目録を利用してみてはいかがでしょうか？

なお、当図書館では、主題をあらわすコトバ

から分類番号を引き出すカードをつくっています。分類索引と呼んでいます。目録コーナー横のカウンターの上にあります。これはコトバから分類番号を知る案内役です。まだ一部分しかつくっていませんので、調べてもカードが見当たらない時は、図書館の職員に番号を確かめてください。

2. 著者名・書名目録 著者名・書名がはっきりしているとき用いる目録です。著者名・書名のABC順にカードが並んでいますので、丁度、辞書をひくように利用できます。あるノ

分類索引カード (コトバのABC順に並んでいる)

Min'yoo 民謡	(民俗学) (音楽) (日本文学)	388.9 767 911.9
Hobo 保母	(児童福祉) (教育)	369 376.1
Ame 雨		451

特定の著者や書名について、どんな図書があるかを調べる時、分類目録は主題ごとに並んでいますので探すのが大変です。時間もかかります。この目録を用いると時間もかかりません。同じ著者名・書名ごとにカードが並んでいますので大変便利です。

911.162 Ki 42 6	Aizu, Yaichi 近代短歌・人と作品 6 会津 八一
728 A26	Aizu, Yaichi 会津 八一 書論集
916.6 A26	Aizu, Yaichi 会津 八一 会津八一書簡集

383 Se16	Kimono 瀬川 清子 きもの
593 O24	Kimono 小川 安朗 きもの

著者名・書名目録カード

(著者名・書名のABC順に並んでいる)

3. 逐次刊行物目録 図書館に所蔵されている資料には、新聞・雑誌・大学や研究所等で発行している紀要類があります。この種の資料は、新聞の何年何月何日号・雑誌の何巻何号が図書館にあるかないかという探し方をします。図書とカードの記録も違います。又、利用頻度も高いため、数の多い図書の目録とは区別しております。なお、この目録で逐次刊行物全般の所在の確認は、今のところできませんので、必要な雑誌・紀要等の照会をどしどしなさせていただきます。

皆さんが資料を求める場合、この三種類のカード目録を十分に活用なさって、目的にあった利用をされると、図書館で所蔵している資料は容易に見つけ出すことができます。

目次と索引を交互に使って、一冊の図書を十

分に使いこなすことができるように、分類を目次に、著者名・書名を索引とみだてて、著者名・書名目録から必要な手がかりを得て、分類目録を十分に活用するという方法を試みられてはいかがでしょうか？

図書館のカードは、このように分類・著者名・書名という三つの手がかりを含んでいます。カード上にはそのほかに資料に関するいろいろな手がかりが記録されています。

a 請求番号 二段、又は三段書きで上段は分類番号、中段は著者名あるいは書名の頭文字をあらわします。これを著者記号(図書記号)と呼んでいます。カード例にあるように、486 昆虫類を扱った図書は図書館に沢山ありますので、著者名によって図書の内容を順序づけるためのものです。下段は巻号数をあらわします。これらを合わせて請求番号と呼びます。図

書はすべてこの番号によって並べられていますので、図書を求める鍵となります。丁度、電話の呼出番号と似ております。

b 版次 新版のものとか、改訂あるいは増補版の指示をします。特定の版とか、最新版を求める手がかりとなります。

c 出版に関する事 出版地・出版社・出版年・著作権登録年（Cの記号を用いる）を示します。資料を求める時、出版年から資料の年代を知る手がかりが得られます。

d ページ数・大きさに関する事 図書のページ数・図版・地図・肖像・大きさ等を示し

ます。本の厚さや大きさの見当がつきます。

e 叢書名に関する事 叢書・講座類の一部として出されているとき、叢書の全体の名前と、その何巻または何号にあたるかがわかります。

f 注記に関する事 翻訳書のときの原書名、複製版の最初の出版地・出版年、参考文献がある時は、図書のどのあたりに附録として入れられているかが分かります。

g 内容に関する事 全集・叢書類など詳しい内容がわかります。

目 録 カ ー ド (和漢書と洋書)

請求番号	486	栗 原 毅	著者名
	Ku61	蚊(カ)の話——よみもの昆虫記	書 名
		北 隆 館 昭50 (1975)	出版社 出版年
ページ数 大 き さ		: 202p(図共)19cm : (くらしの図書館シリーズ)	
	66974		叢書名
定 価	¥ 600		

請求番号	A933.5	Nettels, Elsa	著者名
	J18n	James and Conrad, Athens, Univ. of Ga. Press (c1977)	書 名
ページ数 大 き さ		xi, 289p. 24cm.	出版地, 出版社 著作権登録年
	24049	Bibliography: p. 269-280.	参考文献
定 価	¥ 4,200		

このように、目録カードには、個々の資料についてその要点が記録されます。現物に当たらずとも主な特長がわかり、特定の資料がみつかったときには、資料の置かれている場所を示す請求番号が明示されています。

さて、それでは資料を探す方法・手段としてこの目録だけで十分なのでしょうか。残念ながらカード目録は万能ではありません。

皆さんが実際に、この目録を用いて、ある特定の図書の内容を知ろうとしてもカードに記録がなかったり、あるいは、一著者の短篇や論文

を探そうとしてもカードが見当たらない、というような例がしばしばあると思います。そのようなときは図書館に用意している別の道具、すなわち、書誌的な参考図書(目録・索引・解題等)を利用してください。それらの詳しい説明は「図書館だより3号・4号・5号」で扱っておりますのでそちらをご覧ください。又、直接図書館の職員に尋ねてくださっても結構です。「図書館だより3号」で紹介する自館作成の「当館所蔵全集叢書類内容細目集成」はカード目録の記録の不十分な面を補っておりますのでそちらをもご覧ください。

多くのスペースを費して、図書館で所蔵している資料を求める方法・道具について述べてきましたが、それらの道具を有効に用いるには、図書館を何度も利用されることが一番の早道だと思います。図書館をはじめて利用なさる方の

ためには、その道しるべとなるような各種の案内（分類案内・書架案内・目録案内・カード引出し案内等々）も用意されております。どうぞできるだけ多く図書館を利用して、必要な情報をあなたのものになさってください。

本の並び方

図書館では、本棚または書棚のことを書架と呼びます。閲覧室にはいろいろな形や大きさの書架がありますが、書架には請求番号順に本が並べられています。本はこの各々の書架の一段（ふつう巾90cm）ごとに左から右へ、そして上段から下段へと並べられるのが普通です。このルールをのみこんでしまいますと、図書館の職員と同じように皆さんも、必要とする本をすばやく書架から取り出すことができるようになります。

一緒に本を探してみませんか？

——エルマー・ブランドの「余暇社会の到来」という本を探し出すには——

カード目録は和漢書と洋書を区別して並べておりますので、求める本がどちらに入るかをまず確かめてからカードをひいてください。

○著者名・書名のどちらかがはっきりしているときは、著者名・書名目録カードを用いてください。外国人名は原綴りの姓から引いてください。エルマー・ブランドは Brand, Elmer というように……。綴りがはっきりしないときは、ふつう使われている日本読みから原綴りへの案内「ブランドは, Brand, Elmer を見てください」というようなカードが著者名・書名目録カードのなかに入っております。

○著者名・書名のいずれもはっきりしないが、余暇に関する本だということだけを知っているときは、本の内容からあたる方法しかありません。このようなときは、まず、余暇という内容の本の分類番号を確かめてみてください。分類表をみてもわかりませんので、分類索引で余暇というコトバからひいてみると、365 という番号がわかります。そこで分類目録の 365 の引出をみてください。余暇に関するいろいろな本のカードが並んでおります。

このいずれかの方法で、本の請求番号 $\left[\begin{smallmatrix} 365 \\ B71 \end{smallmatrix} \right]$ ・著者名・書名がはっきりしたときは、それらを請求用紙に書き込んでカウンターの係員に渡してください。本はすぐあなたのお手元にとどきます。

資料紹介

ジュネーブ聖書 請求番号 193—B41b

1560年にスイスのジュネーブで出版された英訳聖書の複製限定版。美しい箱に入っていて、装丁を楽しむためだけでも開いてみる価値あり。

1560年といえば、日本では織田信長が今川氏を滅ぼした桶狭間の戦があった年で、信長の勢力が増大してゆく頃にあたる。当時の英国は、ヘンリー八世による英国教会の独立以来、非英国教徒が迫害されて国外追放されたり、非カトリック教徒が迫害されたりという時代で、1558年にエリザベス女王が即位してやっと少し落ち着きが見られるようになってきた頃。

このジュネーブ聖書は、ジュネーブに亡命したピューリタンが翻訳出版したもので、1611年にジェームズ王の欽定訳聖書が出版されるまでの半世紀の間、英国で最も広く用いられた聖書である。シェークスピアの作品にも、彼がこの聖書を用いていた跡が見られるし、ミルトンやバニヤンは、明らかにこの聖書を用いただろう。

1560年といっても、近代英語であるからわかり易く、恐れる必要はない。今の綴りと少々違っていたりして、発音と綴りの変化を見出してゆくのも面白く、又、中に描かれた5葉の地図を現代の地図と比較してみるのがよからうし、28枚の挿画を眺めて楽しむのもよし。

《随 想》

読 書 に つ い て



生 富 ・ 寛 (教育心理学)

探検家のリビングストーンは、探検旅行中いつもひまをみつけては本を読んでいた。アフリカのある部族の人々は、それを非常に不思議に思い、畏怖していた。ある晩、彼等はこっそりその書物を盗み出して、みんなでそれを食べてしまった。又むかし、アフリカのある原始社会に、“人食い人種”とよばれる人たちが住んでいた。

彼等のこの恐い習慣は、飢えからくる摂食行動からおきてきたものではなかったのだ。彼等は、それを行なうことによって、その人が持っているいろいろな資質や能力を、自らのうちに取り入れることができると信じていたからである。

リビングストーンという剛毅で、かじこい探検家が、夢中になって読みふけている書物（どんな種類の本であったかは知られていないが）これは、やがて彼等にとっても、心がひかれる神秘的なものとして注目されるようになった。そして遂にその書物が、リビングストーンそのものにも匹敵する価値あるものと考えられるようになった。リビングストーンと書物を同一視してしまい、書物を食べるという行動を通して、彼等はリビングストーンに近ずき、そして彼のもつ知性、勇気又端麗な肉体を自分たちのものにしようとしたのであろうか。

当時のアフリカ人が不思議に思い、そして恐れていたというこの「本を読む」という行為は、たしかに獲物を手に入れたり、生活道具を作ったりすることとは異なり、実生活とはあまり直接的なかわりのない行為であったかも知れない。しかし、この得体の知れない神秘的なものだと思われていた「本を読む」という行為

は、現代では人間が人間になっていくうえで、最も大切なものの一つであるということが出来るであろう。子供にとって、本を読むようになるということは、自立への一つのあかしなのである。親の庇護からはなれて、子供は読書の世界で、親以外の他者と一人で交わりをもつことになる。読書とは、書物を通して第三者と出会うことである。そしてこの出会いによって与えられる人間的感動が、そしてその積み重ねが、人間形成に必要な貴重な体験となってくるのであり、又ここから豊かな人間へと成長していくためのエネルギー源にもなってくるのである。

人間形成における読書のもつ意義は、古くから認められていた。それは、読書を通して伝えられる内容が、多くの優れた思想や価値観、洗練された感情や情操、又科学的な知識や情報などからなっているからである。これらの内容は、読む人によって選択され、関係づけられ、変形され更に又まとめあげられたりして、人格のそれぞれの位相に多重的に吸収されていくのである。その結果、人格は再構造化されていくことになり、そして又それによって更に重厚な人間へと変容していくということにもなってくる。

書物を食べたというあの人達は、このような意味での読書の価値を、彼等自身の独得な感応力で、あらかじめ見抜いていたのかもしれない。ひょっとしたら、このような素晴らしい読書能力を身につけたくて、味も香りもおよそ食べ物とは無縁な書物をあえて口にし、そしてそれを全部食べてしまったのかも知れない。

どさんこかたぎのこと

紅 林 晃（事務局長）

過ぐる日東京のさる大規模の学生寮で、長い間舎監あるいは寮の運営に当っておられる数名の先生方と懇談の機会を得た。

全国各道府県出身の大学生を千名余も収容する寮舎だけに、話は一般的な現代学生気質などから弾んで、最近では際立った特徴や気風はみられなくなったものの、やはり各県地方の出身者はそれぞれのお国ことばをはじめ、どこかにそれなりのカラーや共通性といった特有のタイプらしいものがみられるということだった。

そこで北海道出身の学生——約40名入寮——の気風はとたづねると、「ああどさんこね」と笑いながら、実は新入寮者歓迎の集いで自己紹介で、彼等は「僕はどさんこです。北国の自然の中でのびのび育ったので……」が例年のきまり文句だという。なるほどあけすけな屈託のない顔でなんにでもよく首をつっこみ、どこかでトラブルやもめごとがあったといえ、大いどさんこの名があったり、或は一役買っていることが多い。どちらかといえ太らかで、おひとよしの一面があり、独りの世界をもつ思索型というより、常に複数の中での行動型が多いようだし、とにかく人なつこい面など共通していると語ってくれたのである。

さて誰もが承知の通り、どさんことは馬のこ

とである。往時練馬はなやかな頃、大漁鯨の処理に馬力として使い、漁期終り漁場切りあげと共に馬だけは消耗品として現地に放置され、当然酷しく苛烈な北国の風雪を超え飢渴に耐えつつ、早春再開の漁場へこの馬は人なつこくその瘦軀をあらわし、再び馬力の用を果すのである。この繰返しが馬体の退化と習性の変革となり、今日の小軀粗食、頑健従順、根性と粘り強いどさんこ馬を固定化するに至ったという。

さてかかる由来を、開拓以来の道民の二世、三世の誕生者に、その名の通りなぞらえ得るか否かは別として、前述の印象談にあわせ敢てこじつけてみることはいかがであろうか。

嘗て私の道研時代に道民性の研究として、優雅性に欠けるが、生き生きとした行動性、粗野な面をもつが、粘り強く敢闘精神に富む。誇張性もあるが、率直で飾り気ない性格。科学心に弱い、大ざっぱでとにかく試みる。独立心と依存心の併存の矛盾もみられるが、楽天的で進取の気象に富み貧乏を苦にしない。をあげたことであったが、どさんこはこの特性とはどうかかわるのであろうか。そしてもう一つ、どさんこは男性のみではない。どさんこ娘の若く優れた標本として、藤女大の学生かたぎをどのようにとらえたらよいのであろうか。

学生の声

読書のよろこび

栄養科1年 伊 藤 弘 美

どうして本を読むのだろう。この自分への単純な問いは高校時代のある時から始まる。私が非常に尊敬していた国語の先生が授業で「小説が好きでよく読んでいる人はいるかね。」と皆に聞かれたことがある。その時私は思わず「は

い。」と手を上げた。そうすると先生は私に「どうして読むのかね。」とおっしゃった。それまで私はそのような問いに対する答えを一応は持っていたつもりであったのだが、咄嗟に私が答えた事といえば、「おもしろいからです。」と、それだけだった。先生は私の子供っぽい答えにあきれた御様子ながらも、「おもしろいから読む……それでいいんだよ。」とおっしゃった。

「およそ書物はそれがどんなに優れたもので

あっても、私ども一人一人の経験と生活とを豊かにし明るくすることによってのみ意味があるのであって、それがただ知識の積み重ねに終わったりおしゃべりの材料になったりするだけでは、まことにつまらない、と思うのである。」これは森有正の『思索の源泉としての音楽』というエッセイの一節である。この文章はわれわれに一つの反省を促すように思われる。ベストセラーだから読むとか学習や教養のために必要だと言って本を読む、確かにそれも大切であろう。だがもっと純粋な喜びを読書に求めているかがだろう。私は芸術というもの全てはその出発点において楽しみであり遊びであってよいのではないかと思う。読書の喜び、それは素朴な笑いや涙で始まるがそれらは決してそのままの形で留まっていることはなく、人間というもの、生きるという事を考える喜びへと広がってゆく。読書という遊びは遊びだけに終わることがないのである。われわれは持ちうる限りの思考能力をそこに注ぐことを要求される。読書の喜び、それは日常生活の中にメタフィジカルな時間を得る喜びであるのかもしれない。

図書館と私

文国4年 佐々木 優佳利

図書館の窓際の、一番日当たりのよい明るい席について、マリア像のあたりに目を向けると我大学の小さなキャンパスの風景が、とてもよい感じに視野に入ります。ついこの間まで、美しく色づいていたイチョウの葉はもうみんな散ってしまったけれど、もう少しすると今度は、綿のような白い雪がこの風景をまた冬の季節感で一杯にすることでしょう。書物に落としていた目をふと外に向けてこの風景を眺めるのが、私はとても好きなのですが、この頃は、季節の移ろいがそのまま残り少ない学生生活を感じさせて、幾分淋しい心持ちです。

それにしても、図書館という場所は、とても私達を落ち着かせてくれるところです。書物の息づいている声が聞こえてきそうな、静けさの

せいでしょう。

そう言えば、私は小学生の頃、図書館という場所がとても好きだったことを思い出します。確か、週に何度か学年毎の貸し出し日が決まっていたような気がします。その日には決まって、私は図書館に顔を出し、たくさんの本を長い間あれもこれも物色して、そして、その中で一番読みたい本を一冊だけ借りるのでした。図鑑、ファープル昆虫記、ジートン動物記、伝記、科学的な読み物、歴史書、童話、ギリシア神話など、それはそれは多種多様な本を……。

この間、その頃読んでとても好きだった童話「だれも知らない小さな国」という本を、文庫本で見つけました。“あの頃、何を考えていたのかしら”などという、いつもはあまり考えないことに思いを馳せて、自分の中の小さな歴史を感じたものでした。

あの頃の2倍程年をとった私は、その頃の何倍の本を読んだことでしょうか。数は何倍でも、本の種類はずいぶん限られてきていることに、いささかの後悔を覚えます。最近、卒論の関係でキャレルに入る機会が多くなり、その膨大な書物の背表紙を追っていると、あの本も読みたい、この本も読んでおくとよかったと思うものがたくさん目にとまります。

大学生生活は、自由な時間をどれだけ有効に使ったかで価値が決まるとよく言われます。過ぎ去ってしまった時間を取り戻すことはできなくても、これから残されたわずかな自由な時間に、もう一度幼い日のあの貪欲な好奇心を取り戻して、文学とは無縁な書物にも目を向けてみたいと思っている今日この頃の私です。



資料紹介

E. E. T. S.

請求番号 083-E-11

毎週、図書館には新しい資料が100冊程入りますが、これらの何分の一かは一度書庫に収められてしまうとだれの眼にも手にも触れられることもなく薄暗い書庫の中で埃にまみれ、忘れられてしまいます。ここに紹介しようとしている E. E. T. S. はそんな種類の資料の一つです。

1864年、イギリス人の言語学者 F. J. Furnivall 等によって設立された **Early English Text Society** は古代英語、中世英語、初期の近代英語で書かれた文献で、いまだ出版されていないものを発行することをその設立の目的としました。この Society の出版物を略して E. E. T. S. と呼んでいます。Original と Extra の両シリーズとして発行されましたが、1921年以降 Extra series は廃され、Original series のみとなり1970年からはあらたに Supplementary series が加わり現在まで約400冊出版されています。図書館においてはこの大部分を所蔵しています。各テキスト毎に厳正な校合が行われ、glossary, index 等が付けられています。

英文学最高の叙事詩といわれている Beowulf や W. Caxton の翻訳物、アーサー王を中心とする英雄物語、アレキサンダー大王の生涯を書いた伝説物語、聖杯伝説等の中世ヨーロッパ文学のロマンスと呼ばれる数多くの作品がこのシリーズには含まれています。文学的な作品ばかりではなく、Ancrene Riwe (修道女戒律) 等の宗教的散文、医学書、科学書、あるいは15世紀のイギリスの宮廷内の宴会の料理献立、料理法を集めた写本等も含まれており、古代英語、中世英語を学ぶための重要なテキストとなっています。書庫の奥深くでひそかに眠っているこ

れらのすばらしい資料を一度手にとってみてはいかがでしょうか。

NEWS

目録編成の変更 従来「参考図書」として、別のケースにまとめていた辞書・便覧・索引・年鑑等の目録カードを、それぞれの部門の一般図書の目録ケースに、分類順にファイル致しました。

「分類目録カード」は、同部門・同主題のものを、全部同じケースに一括しましたので、同じ分野の資料を探す場合には、一カ所の目録カードで対象の資料を全部探すことが出来ますし、関連の「参考図書」を知るのが容易になりました。

資料の移動 書庫がせまくなり、資料の配置を変更致しました。庫内検索には御注意下さい。主な移動は次の通りです。

243室 未整理洋書

書庫1層 雑誌等の配置変更

2層 洋書(歴史・社会他)書庫外へ
和書(芸術)3層より

3層 和書の配置変更

更に引続いて配置の変更予定があります。

春季休暇中の開館・休館日の予定

休日開館(9時30分～16時)

・2月17日～3月18日

出納時間 9時30分～15時30分

休館

・3月20日～4月8日

この期間長期貸出をいたします。

臨時休館

・2月18日～2月20日

入学試験および準備

藤女子大学
藤女子短期大学

図書館だより

第6号 1978. 2. 1. 発行

発行者 札幌市北区北16条西2丁目

藤女子大学図書館

印刷者 札幌市東区伏古8条2丁目

天使院印刷製本所